

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>
 第668号 2025年10月12日

鈴木 真主任司祭 主日ミサ説教



2025年6月15日 三位一体 C年

ヨハネ福音書 16章12～15節

ヨハネ福音書では、聖霊を「真理の霊」と表現します。この「真理」はヨハネが好んで使う言葉で、例えばピラトがイエスを尋問する場面では、イエスが「わたしは真理について証しをするために…来た(18:37)」と言ったりしています。『聖書と典礼』の注書きには、いろいろと解説されていますが…特段、哲学的な意味としてではなく、単に「神の特性」つまり、神さまがどのようなお方を指すもの、として読めばいいかと思えます。ですから、むしろ「神の」と言い換えた方が分かり易いかもしれません。

「霊(聖霊)」と訳されたヘブライ語では〈ルーア〉、ギリシャ語の〈ネウマ〉は、どちらも“息”とか“風”という意味の言葉です。すべての命を生かす神の息、そして、すべてのものを動かす風。つまりは命を生かし、すべてにはたらきかける神からの力、そ

れが「聖霊」と言っていていいでしょう。

わたしたちが気付くか否かにかかわらず、常に聖霊はわたしたちに臨んでいます。例えば今こうしてわたしたちがミサに集っているのもそうですし、教会が2000年の間、世界中で続いているのもまた、聖霊のはたらきでしょう。

神からキリストを通して常に聖霊が働き続けている…そのことが「三位一体」に他なりません。その主日に、そのような神さまのはたらきを、共に感じたいと思います。

2025年6月22日 キリストの聖体 C年

ルカ福音書 9章 11b～17節

『五つのパンと二匹の魚』…この話は4つの福音書すべてに載っているものです。他にも4つの福音書に共通する箇所はありますが、1つ言えるのは、それが福音書の編集された時代に、かなり有名なものだった…ということでしょう。ただ4つの福音書それぞれに強調点が違います。

ルカは「神の国(バシレイア)」という要素を強調します。これは直訳だと“神の支配”、つまり神さまのわざがそこに行われている、ということです。

これしかない、これではとても足りない、役に立たない…人の目にそううつものを使って、すべての人を満足させる…どころか、有り余る恵みにしてください。これこそが「神さまのわざ」でしょう。問題は「これしかないけど…」とわたしたちが自分の何がしかを差し出せるかどうか、です。「どうせこれじゃ役に立たないから、自分たちで食べちゃお

う」では、このようなすてきなことは起きなかったかもしれません。

わたしたちは、しばしば自分の無力さを嘸みしめます。これじゃ何も変えられない、人のために役に立たない…でも、それを使って何かをなさるのは神さまです。そして、その模範は、ご自分のすべてを人々の救いのために渡されたイエスに他なりません。わたしたちも、そのようなイエスに従って、自分の何かを差し出せるように、共に祈りましょう。

(撮影：編集部 土方芳人)

「病者の塗油」の秘跡

9月14日(日)は十字架称賛の祝日でした。11時半のミサの中で「病者の塗油」の秘跡が行われました。

聖堂は、たくさんの人で埋め尽くされるほどでした。久しぶりに教会を訪れた方々の周りには、懐かしそうに、たくさんの方が駆け寄っていきました。

ミサは鈴木真主任司祭の司式で執り行われました。お説教のあと、教区副事務局長の牧山善彦師とお二人で、希望される一人ひとりの額に油が塗られました。家族に支えられながらも、しっかりとした足取りで神様のみ前に歩いていく姿は、強い信仰の喜びを感じさせるものがありました。

また共同祈願では「神のいつくしみに感謝し合う、互いの尊敬と思いやりの心をもって、世代を超えた交わりが深められていきますように」と唱えられました。今年の異常なほどの暑さを鑑みて、来年は10月に開催されることが、教会委員会で決まりました。

今回参加された皆様方が、神さまに守られて穏やかに過ごしになられますことを心よりお祈りいたします。



左下から鈴木師による塗油、牧山師による塗油、塗油を待つ信徒の方々

(編集部：撮影・宮 裕一 文：古谷浩子)

7年ぶりにご長寿をお祝いしました

9月14日(日)、教会ホールで開いたご長寿をお祝いの茶話会に、およそ90の方が参加されました。2018年までは、お食事を作ってお迎えする祝賀会でしたが、ここ数年の猛暑を思うと食品衛生の上でお食事を提供することに不安を覚えます。しかし、お祝いの記念品をお渡しするだけでは物足りないという思いから、茶話会を企画しました。

鈴木真神父様からお祝いのお言葉をいただいた後は、皆様、歓談を楽しまれて教会ホールは熱気と活気にあふれていました。「顔を合わせてのおしゃべりが一番楽しくていいね。ありがとう」というお声をいただき、シルバーケア一同の励みとなりました。かつて祝賀会を担当していた山下町と唐沢の両家庭会にお手伝いをお願いしたところ、快く引き受けてくださり、お手伝いされた方々からも「楽しかった」「共同体の一員であることを実感した」というお声をいただきました。家庭会以外の方々もご協力くださいました。皆様、ありがとうございました。

お祝いの記念品は鳩サブレーです。聖霊の鳩が皆様の上にとどまるようにと祈りを込めました。77歳

以上の方はおよそ380人いらっしゃいます。諸事情から「病者の塗油」や茶話会の参加が難しかった方々にも、神様の祝福が豊かに注がれますように。



久しぶりの再会に話の花が咲きました

(文：シルバーケア 竹之内 弘美)

撮影：編集部 宮 裕一)

講演会「人生に寄り添う音楽—ホスピス緩和ケアの現場から—」

9月21日（日）ロザリオ会主催

(共催・ヨゼフ会、福祉委員会)

普段はオルガニストとして聖堂2階で演奏をしておりますが、今回は私のもうひとつの専門領域であるホスピス緩和ケアの音楽療法について、聖ヨハネホスピス(小金井市)での患者さんとのエピソードを中心に、皆さまの前でお話しさせていただきました。

第1部は、①なぜ、この道に？—ホスピス緩和ケアにおける音楽療法士のしごと—②人間は音楽。そして、音楽は太古の昔から私たち人間の生活と共にあった③ホスピスに流れる音楽は患者さんとご家族のリクエスト曲が中心④音楽による人生の振り返り～「映画と共にある人生」「ミュージカルの愉し

み」「我が人生は合唱とともに」「演歌は日本人の心の故郷だねえ…」⑤「好きな音楽で見送られたい」～「古城めぐり」「Ave verum corpus をお願い!」「これは友人への贈りもの」「主よ御許に…」(見送る家族の思い)⑥「音楽は喜びの友、哀しみの薬」Musica laetitiae comes medicina dolorum⑦考えてみましょう「音楽とわたし」⑧愛唱聖歌／賛美歌または愛唱歌はありますか？それは、なぜ？—でした。

第2部では2階のオルガンに移動し、まず冒頭に《アヴェ・ヴェルム・コルプス》(モーツァルト)を聖歌隊有志のリードのもと会場の皆さまにもお歌いいただきました。第1部でご紹介した2人の患者さんのエピソードがこの曲に関するものでした。続いて《アドロ・テ》(ベルティエ)、パッサカリア ニ短調(ブクステフーデ)、シチリアーノとアレグロ(バッハ)、《ガブリエルのオーボエ》(モリコーネ)を私の従姉・下里和子のフルートとともに演奏いたしました。

配布したプログラムには、皆さまへの「宿題」として「ご自身が大切にしている曲、思い出の曲、天国に旅立つときに聴きたい曲について、ご家族や親しいご友人とお話ししてみてください。ご一緒にその音楽を聴く、歌うひとときを持っても良いですね」と書かせていただきました。今回の講演を準備する過程で、私も自らの来し方を振り返ることができ、それは大変幸いなことでした。講演会をお支えくださった全ての方々に感謝申し上げます。





左から下里さん、米沢さん

(文：山手教会オルガニスト 米沢陽子)

撮影：編集部 土方芳人)

聖書の分かち合い

7月20日

～神様は私たちに何を呼びかけておられるか～

昨年に続き聖書の分かち合いを、教会ホールで午後1時から福祉委員会のコーヒーでくつろいだところで開催いたしました。今回は、4月まで司牧などで大変お世話になった内藤聡神父様（二俣川教会）に、お忙しい中、ご指導をいただきました。

まずは、参加者全員（およそ30人）で恒例の典礼聖歌409「呼ばれています」を唱和して心を整え、4、5人ずつの小グループに分かれ、「わたしたちの心に響く聖書の言葉」を各自が朗読して、その箇所を解き、「神様

は今私たちに何を呼びかけておられるか」を主題に、黙想と祈りを通して分かち合いを行いました。

いろいろな形で分かち合いを行うことは信仰生活を送るにあたり必要なことである、と神父様からアドバイスがありました。今回、信徒各自が選ぶ「心に響いた聖書のみ言葉」を聴いて黙想し、祈り分かち合うことは、改めて神様からの大きな気付きと祈りの豊かさをご褒美としていただけたのではないのでしょうか。

グループごとに分かち合えた「心に響く聖書の言葉」を土台に「祈願文」を「祈り心」で作成したい気持ちが醸成されたところで予定の時間となり、午後2時半過ぎあたりで終了しました。ありがとうございました。次回も、ぜひ多くの方のご参加をお待ちしております。感謝と祈りのうちに。

(ヨゼフ会 幹事 末澤二郎)

オルガン昔語り Soli Deo Gloria(Ⅱ) (前号Ⅰからの続き)

その頃、山手教会のルーツである横浜天主堂の歴史調査に尽力された板垣博三氏は、1985年（昭和60年）3月の『やまて』第187号に「パイプオルガン」と題する投稿を寄せ、実現に至る説得性あるプランを提示してほしいと訴えてくださいました。その寄稿文の冒頭を一部再録してみましよう。

“昭和51年10月発行『やまて』第86号並びに本年1月発行第185号に、渡辺敏行氏が熱心にパイプオルガンの山手教会への導入を説いておられます。51年当時、私は或る信者の方に渡辺氏への援護射撃を依頼されましたが、環境は全く絶望的でしたので差し控えていました。パイプオルガンと活動写真を同一水準で語ることは不謹慎極まりないのですが、たまたま私の脳裏をかすめたのは私の小学生当時の思い出でした。長者町5丁目のオデオン座は当時洋画の封切劇場で、楽士が5人以上も揃ったミニ・オーケストラを抱え、無声映画の進行に偉大な迫力を与えていました。入場料が多少高くても場内は、いつも満員。他の二流、三流の活動写真館は一人だけのアコーデオン弾きとか、似たようなメロディのレコードで間に合わせていたものです。チャンバラ映画

となると三味線一丁で大汗流して大薩摩を弾くというお粗末さでした。目から入る同じ内容の活動写真でも耳から入る迫力によってこうも差が現れるものかと痛感したのは私だけだったのでしょうか？ 目的は達成されなければなりません。…以下、略”

こうした状況下、1987年の横浜天主堂献堂125年、横浜教区設立50周年の記念にパイプオルガンを設置してはどうかという再提案を行いました。（『やまて』1987年3月 第211号）その結果、次第に私の声に共感を示される聖歌隊員や、かつて日本橋三越でオルガン奏者をしてきた松沢氏を旧知に持つ富田晋氏、オルガニストの児玉麻里氏を知る長老の大木吉太郎氏が理解を示されるなど、関心の広がりを見るようになりました。

なかでも教会音楽を深く愛する野村勝美氏は、山手に転入以前在籍していた鎌倉・雪ノ下教会でオルガン導入を巡って教会内に亀裂が生じた顛末をご存じで、同様の事態はなんとしても避けたいとの思いを持って音頭を取られ、オルガン検討会を立ち上げるに至りました。その趣旨としては、山手教会にふさわしい楽器を多方面から比較検討して教会委員会に答申を行うというものでした。手始めとして、パイプオルガンと電子オルガンの違いを体感すべく1987年4月に見学会を実施し、日本基督教団銀座教会（ドイツ・ケーベル社製1984年）、日本基督教団高輪教会（米国アーレン社製電子オルガン）、カトリック喜多見教会（山野オルガン工房製1987年）、カトリック田園調布教会（ドイツ・アルビーツ社製1978年）とカトリック町田教会（アーレン社製電子オルガン）を検討会メンバーと有志の信徒を含めた10人余りで巡り、その音色や機能、導入までの経緯などを調査しました。翌5月には三笠教会所属でオルガン製作者の須藤宏氏を教会に招き、10人の参加者と共に山手にオルガンを設置する場合の仕様、デザイン、設置場所（床の強度検討を含む）などの問題について意見を伺い、質疑応答を行って理解を深めました。

その後9月には具体的な提案を行うための機種、規模・仕様などの意見書を取りまとめ、翌1988年3月の教会委員会です承され、費用見積りを依頼する製作者、メーカーの選定に至るまでになりました。

具体的な答申としては、須藤オルガン工房による鍵盤数やストップ（音栓）数の異なるA・B・Cの仕様案と、信徒から建設基金を募るという資金調達計画でした。この時、通常の建築や設備工事で行われるような複数社からの相見積りを行わなかった理由としては、それぞれの個性を持つオルガン製作者間の価格による比較競争は避けてほしいとの須藤氏側の意向があったからです。

ところが同時期、聖堂本体の改修工事と新たに司祭・信徒館を建設するという大事業が決まり、オルガン導入の問題は、さらに5年の先延ばしとなりました。その間、老朽化した電子オルガンの代替として聖ヨセフの小祭壇前にドイツのアールボーン社製電子オルガンが1988年10月に購入設置されました。

ようやく1992年になって出された教会委員会の結論としては、価格的に最も安い（つまり仕様・規模が最小限の）案に決定し、新規の募金ではなく教会会計から一括して支出するという決断がなされ、須藤オルガン工房との間で契約が交わされ発注に至りました。ご存じのようにパイプオルガンは一台一台が個別に製作される楽器で、この時もすでに須藤氏が宮崎県立芸術劇場のオルガン（国産のオルガンとしては最大級）に着手されており、実際に山手での完成を見るにはさらに3年を要しました。じつに正式な検討が始まってからでも8年が経過していたのです。

1995年4月9日バーク師によって行われた祝別・奉獻式に作成された式次第に私が文案を書いた「山手教会のパイプオルガンについて」と題する紹介文は、後に山手教会の歴史を振り返るシリーズを掲載した『やまて』2005年11月 第433号に再録されています。（*）

ところで、オルガンについて関心のある方であれば、この楽器の仕様については疑問を持たれるかもしれません。なぜ1段鍵盤10ストップなのかという点です。日本のカテドラルのなかでも1段鍵盤のオルガンは新潟教会（ドイツ・ファイト社製1929年）くらいではないでしょうか。結論から言えば、聖堂改修や司祭・信徒館建設に多額の資金を費やした後で、オルガンに使える予算が限られていたからです。当時、海外勤務で香港に在住していた私は、野村氏

から送られてきた答申案を見て、なんとか2段鍵盤にできないものかと電話で説得を試みましたが、野村氏がおっしゃるには、一にも二にも資金が足りないとのことでした。しかも約1500万円のA案は同時期に須藤氏が受注していたカトリック上野毛教会の仕様と内部機構を兼用することで設計費用の節減を図ったものだったのです。勿論、楽器の外観(プロスペクト)は設置場所によって設計されるので、パイプを収めたケースなどの見た目は全く異なります。

このように多くの紆余曲折と議論検討を経て実現したオルガンですが、上記で紹介した故板垣氏の無声映画劇場での音楽環境の差が集客力の差となって現れていたとのエピソードは、図らずもその当時から一世紀も経た現代、東京目白のカテドラルで月に一度の金曜日夜に開かれるオルガン・メディテーションに数百人もの人々が会衆席を埋め尽くして聖書のみ言葉に耳を傾け、オルガン曲による瞑想に集うさまを見るたびに思い起こされます。

教会のオルガンは、一般のホールでの音楽公演や教育機関での教育のためという目的とは異なり、ひたすら“神の栄光と賛美のため”(Soli Deo Gloria)に用いられる楽器です。多くの先輩信徒たちの思いと尽力によって神様から与えられた山手教会のオルガンが、これからも未永く神の民の賛美の歌声を支えて一つに結び、力強く救いの業を告げ知らせる道具として用いられるよう願うばかりです。

〔追記〕(*) 設置委員会の座長が作成された祝別・奉献式の式次第の中に、オルガンの仕様が記載されましたが、パイプ総数454本とあります。そして、2014年に刊行された『横浜天主堂・カトリック山手教会150年史』P.91にも再録されました。しかしながら今回のコンサートを準備する際、須藤氏側の記録を再検証した結果、総数565本プラス音の出ない装飾用1本の計566本であることが判明しました。なぜこのような差が生じたかについては、祝別・奉献式の時点で実は10ストップのうち何個かがまだ音の出る状態ではなかった(パイプが立っていなかった)ことが原因ではないかと考えられます。今後の記録のために訂正させていただきます。

(渡邊敏行)

2025年9月度教会委員会議事要約

日時：2025年9月7日(日) 午後1時～3時35分

場所：司祭・信徒館1階「松・竹」

議事内容(議事進行：小倉委員長)

1 主な審議確認検討事案 ※順不同

(1) 司祭・信徒館キッチンのガスコンロについて

- 大掃除の賄いの調理など大量の調理を行う際に、もっと火力の強いガスコンロを使用したい。
- ガスコンロを大型化(業務用)にする場合、ガスの配管についても見直す必要あり。

【決定事項】

- ・承認する。

(2) 聖堂の空調システム更新について

- これまで毎月の施設管理委員会で、聖堂の空調機の更改について議論を重ねてきた。
- さまざまな機種、取り付け方法などを検討し、案として絞られてきた状況である。
- 昨今の物価の上昇を考慮すると、早めに手配することで費用が抑えられると考える。

【決定事項】

- ・教区の建設委員会への報告、意見を伺う。

(3) 教会ホールのごみについて

- 教会ホールのごみ箱の中に食べ残し、飲み残しがあるまま捨てられているのが散見されている。先日、教会ホール台所に害獣が侵入したと思われる被害が確認されている。ゴミ箱に張り紙をしたが、生ごみなどが出たら、まとめて事務所横のごみ箱に入れることをお願いしたい。

(4) 献金箱の使い方について

- 現在、ミサの都度さまざまな目的に応じて個々に献金箱を置いている。献金箱の数に限りがあり、新たな目的で献金が必要となっても献金箱が足りない状況である。献金箱の利用方法について考えたい。

【決定事項】

- ・本日の提起を踏まえ検討を継続する。

(5) ヤクーブ氏コンサート、福島やさい畑について

- 8月31日(日)に開催した「ヤクーブ氏コンサート」では、聖地の子どもを支える会に270,123円の献金があった。物品についても予想以上に販

売できたとのこと。

- 8月10日（日）の福島やさい畑については、売上196,090円、ご寄付6,849円が計上された。

【決定事項】

- ・ 次回の福島やさい畑について当初11月の予定であったが、フルーツの季節を考慮して10月に行っていたように打診する。

(6) 福祉での物品購入及び資材管理の提案

- 毎年恒例の船員さん向けの毛糸の帽子制作に必要な毛糸を購入した。
- 炊き出し用の番重（運搬容器）が廃棄されていたことについて、教会の備品の管理が十分に行われていないことが原因であると考え。そのため、教会内の備品について棚卸を早急に行い、物品の管理者の明確化と貸し出しなどの使用者履歴管理を行う必要があると考える。

【決定事項】

- ・ 物品の管理などについては継続審議とする。

(7) ポジティブオルガンの借用について

- パイプオルガン設置30周年記念コンサートで、須藤オルガン工房からポジティブオルガンを借用したいと考えている。コンサート前日に搬入・調整を行うため、搬入の際の人手が必要である。

【決定事項】

- ・ ポジティブオルガンの搬入については日程を調整。

(8) 来年以降の敬老のお祝いの日程について

- シルバーケアの担当者から、お食事を提供し皆さんに楽しんでいただきたい。酷暑の中で食事を提供するとなると衛生的にも問題が出るので、酷暑のシーズンを外した日程で検討したい。

【決定事項】

- ・ 来年度は10月18日（日）で調整する。

(9) 今年の防災訓練の日程について

- 防災訓練の日程を決めたい。

【決定事項】

- ・ 10月4日（土）および5日（日）の各ミサ後に防災訓練を行う。
- ・ ICCについては、別途ICCで調整する。

(10) 燭台について

- 燭台が以前からそろっていないと指摘を受けて

いることから購入を検討したい。

【決定事項】

- ・ 承認する。

2 今後の活動、報告事項

【講演会前のワンコインランチについて】

- 9月21日（日）講演会の前に教会ホールでロザリオ会がワンコインランチとしてサンドイッチとコーヒーを500円で提供する。

【追悼ミサについて】

- 追悼ミサを11月1日（土）10時から行う。当日午後は合葬墓への納骨を行う予定。

【9月14日の英語ミサについて】

- 9月14日の英語ミサは司教ミサの予定。ミサ後、教会ホールでコーヒーソーシャルを開催する。

【教学より】

- 9月21日（日）にフォローアップで受洗後1～3年の方を対象に「聖書の分かち合い」を司祭・信徒館「松・竹」で行う。

【横浜みこころ幼稚園より】

- 10月26日（日）にバザーを開催する予定。当日はボーイ、ガールスカウトのほか、みこころコーナーやロザリオ会にもご協力いただけることになっている。11月1日（土）は、幼稚園の入学願書の受付を行う。8時半まで待合所として教会ホールを使う予定。

【福祉委員会より】

- 11月30日（日）にミニ福祉バザーを開催する予定。

3 主任司祭から

- 来週の敬老ミサについては、牧山師にも来てもらうこととなった。
- すでに教区の人事で発表されているが、9月1日付でトラン・ヴァン・グェップ新司祭が山手教会助任司祭とられた。
- 9月28日（日）の「子どもとともに、ささげるミサ」に藤沢教会の教会学校の子どもたちが参加する。
- 10月18日（土）、19日（日）は、横浜教区の青年の集いで不在となる。

4 次回教会委員会

2025年10月5日（日）午後1時～3時終了予定。

（総務担当 宮 裕一）

2025年10月・11月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

日	主 日	聖 歌			聖歌隊	時 間	奉 仕 者				備考
		答唱詩編	アレルヤ唱	ミサ曲			オルガン	先 唱	聖書朗読		
10月12日	年間第28主日	典149 ①②③	典273 年間28C	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	渡 邊	工藤(元)	小佐井	福田(直)	
						7:30	手 束	二 宮	大濱(学)	大濱(美)	
						11:30	佐 藤	遠 藤	佐藤(日)	穴澤(千)	
19日	年間第29主日	典71 ②③④	典270 年間29C	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	村 松	齋藤(悠)	飯塚(秀)	志村(光)	
						7:30	渡 邊	末 澤	官野(さ)	仁井田	
						11:30	米 沢	山本(紀)	佐伯(奈)	上田(敏)	
26日	年間第30主日	典128 ①⑤⑥	典273 年間30C	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	忠 海	宮	工藤(元)	島田(節)	
						7:30	小 嶋	亀 井	秋山(政)	山本(真)	
						11:30	太 田	子どもとともにささげるミサ			
11月2日	死者の日 年間第31主日	典123 ①②④	典275⑤	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	村 松	竹之内	新井田	阿部(眞)	
						7:30	小 嶋	末 澤	鈴木(幸)	鈴木(由)	
						11:30	手 塚	山本(紀)	清水(美)	池田(恵)	
9日	ラテラノ教会の献堂 年間第32主日	典102 ①②③	典276 ラテラン献堂	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	村 松	齋藤(悠)	小佐井	福田(直)	
						7:30	手 束	二 宮	東海林(珠)	時 久	
						11:30	佐 藤	遠 藤	石田(明)	中野(説)	
16日	年間第33主日	典149 ③④	典274 年間33C	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	太 田	工藤(元)	飯塚(秀)	志村(光)	
						7:30	渡 邊	末 澤	石川(喜)	萩原(恵)	
						11:30	中 川	小 山	中川(由)	佐伯(奈)	
23日	王であるキリスト	典173 ①②③	典266 王である キリスト	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	忠 海	宮	工藤(元)	島田(節)	
						7:30	手 束	亀 井	古谷(浩)	藤本(茂)	
						11:30	太 田	子どもとともにささげるミサ			
30日	待降節第1主日	典173 ①②⑤	典255 第1主日	ミサ曲A 典605~9	*	前日pm5:00	太 田	柳 川	工藤(元)	櫻井(智)	
						7:30	小 嶋	時 久	梅田(啓)	稲葉(千)	
						11:30	米 沢	村田(義)	小松(美)	萩原(恵)	

編 集 後 記

夜、ベッドに入るために電気を消すと「チッ・チッ・チッ・チッ・チッ」と虫が鳴き始めました。台風対策で、ベランダに出していた複数の洋ランの鉢などを室内に入れましたが、この虫も一緒に入って来たようです。「チッ」の回数は4回から7回程度で、その時の気分で鳴く回数を決めているようでした。夜中に数回、目を覚ましましたが、その時も、さわやかな声で鳴いていました。インターネットで虫の正体を調べると、体長が約1cmの褐色のコオロギである「カネタタキ」の鳴き声であることが分かりました。この虫は、空調機器でコントロールされた快適な室温にうれしくなり、自分の気持ちを雌にアピールしていたのだと思います。翌朝、すべての鉢をベランダに戻したのですが、この虫は部屋に残っていました。夜、消灯してしばらくすると、また静かに鳴き出したのです。驚かせないように、弱い照明をつけて鳴き声のする場所を確認すると、かもいに掛けてあったハンガーの上を歩きながら鳴いていました。見失わないように明るい電気をつけると、目がくらんだのか動きが止まったので、ハンガーをそっと持ち、そのまま移動してベランダで栽培しているボタンの葉に近づけると、うれしそうに飛び移りました。この雄は、わたしにすばらしい秋の音色の贈り物をしてくれましたが、これからは、その美声で雌を魅了し、子孫を残していただきたいです。(土方芳人)

☆表紙のカット(山手教会)は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。